



問 民間プールを活用した小学校水泳授業の今後の在り方を問う

学校プール施設の劣化等により、修繕が不可能または困難な学校を対象とした「民間プールを活用した水泳授業」が、本年度1学期から試行的に開始されたと聞く。この新たな形の水泳授業に関し、学校出発から帰校までの一連の流れおよび水泳指導の具体的内容ならびに民間委託による効果、加えて来年度以降における民間プールを活用した水泳授業の在り方について、見解を問う。

答 今回の民間委託を検証し、水泳授業の在り方を検討していく

一例として、民間プールまで送迎バスで片道約20分で、授業の説明、水泳指導、着替え等を含め、全体で約90分間である。泳力に応じたグループごとにインストラクターと教員がきめ細かで効果的な指導を行い、児童が楽しんで授業に取り組む様子や、1回の授業でみるみる上達する姿が見られた。また、教員からも「天候等に左右されず児童は水泳授業に打ち込めた」「インストラクターの専門的な指導方法は学ぶところが多い」などの声が聞かれた。今回の民間委託をしっかりと検証し、民間委託の拡充の可能性や公営プールの活用なども含め、水泳授業の在り方を検討していく。

その他の質疑・質問

- 児童生徒の安全な登下校に関して
- 中学校における自転車通学の現状について
- 通学路の安全確保について
- 「外国人児童生徒支援事業」に関して
- 初期日本語教室「きずな」10年の歩みについて
- 進路保障の取り組みについて
- 水難事故防止対策に関して **など**

▶ ペットボトルを活用した手作り「簡易救命具」。車内に常備しておけば非常時に役立つ



問 市民の生命を守る津市の救急医療体制を問う

昨今のオミクロン株流行により爆発的に新規感染者が増え、救急現場では市中感染の広がりによる発熱者の救急搬送が急増している。また、感染した医療従事者の休職による人手不足など、これまでと違う理由も重なり、救急現場が逼迫している。こうした厳しい状況においても、生命を守る救急医療体制の堅持を願い、コロナ禍における二次・三次の救急医療体制の現状を問う。

答 いずれの病院も厳しい中で救急医療体制を堅持している

現在、二次救急医療は、市内8病院による輪番制で救急搬送患者の受け入れを、三次救急医療は、三重大学医学部附属病院でご対応いただいている。

コロナ禍においては、二次輪番救急病院のうち、感染症指定医療機関等では、感染症患者の受け入れも併せて行っており、三重大学医学部附属病院では、特に重症患者の受け入れが行われている。

また、輪番時間帯での救急搬送件数は、本年度は月平均470件（昨年度419件）となっており、第7波で感染が急拡大した7月は、コロナの感染拡大が始まって以降、最多件数で、いずれの病院も厳しい中で救急医療体制を堅持していただいている。

その他の質疑・質問

- 津駅西口ロータリーの混雑による危険の解消を
- 歯と口腔の健康づくりにおいて乳幼児期から高齢期におけるライフステージに応じた取り組みは
- 事業や政策への市政アンケート調査の利活用は
- 令和3年度決算で財政調整基金は100億円を超えているが、適切な積立額と運用をどのように考えているか。また、市債残高とのバランスは **など**

▶ 厳しい状況の中で救急搬送の業務に向き合っている隊員の方々の心身への配慮も大切に

